

平成31年第4回（臨時）高砂市教育委員会 会議録 要約

日時

平成31年3月14日午後7時30分

場所

高砂市役所西庁舎2階会議室

出席者

衣笠教育長、山名委員、吉田委員、神尾委員、布施委員

出席事務局職員

永安教育部長、阿部教育推進室長、瀧野学校教育室長、赤松学校教育室学校教育課長  
都筑教育推進室教育総務課長

本日の会議に付した事件

報告事項

- 1 夏休みについて

議 事 報告事項 1 夏休みについて

- 事務局 本日、先日の手紙の取り扱いについて、学校のほうへ、教育長、学校教育室長、教育総務課長、学校教育課長で行かせていただきまして、先生方と直接お話をさせていただいております。また、先生方からのお声を教育長に聞いていただきましたことをご報告をさせていただきます。
- 引き続きまして、本日、加印の教職員組合さんと交渉ということで、いただいております申入書のことについての交渉をさせていただき、お互いに意見交換をさせていただき、申し入れについて回答をさせていただきました。
- 教育長 昨日は東播の教職員組合、今日は加印の教職員、どちらも私のほうが出席させていただいて、いろいろ話し合いをさせていただきました。それについての報告をさせていただきます。
- 事務局 昨日の東播の教職員組合につきましては、執行委員長と書記長の参加がございました。教育委員会は教育長、学校教育室長、学校教育課長で対応しております。内容につきましては、働き方がメインだけれども、子供のためにどんなことができるのか考えているとおっしゃいました。これからは何でも言い合える関係になって、いろいろ相談をしながら、連絡をとりながら取り組んでいけたらという話もいただいています。また、その中で教師の研修も必要であり、指導力向上も必要であるので、そういうところについても今後考えていただきたいというようなご意見をいただいております。
- 今日の加印の教職員組合につきましては、執行委員長ほか3名、教育委員会は教育長、学校教育室長、学校教育課長と教職員係長が出席しております。その中で、夏季休業の短縮については、実施するというところで説明しましたが、なんとか今からでも撤回できるのではないかと、そういう方向で考えていただけないかというご意見をいただきました。手続きについては、先生方の意見をしっかりと聞いておくべきだったのではないかとということです。実施するのであれば、今後のこと、とにかく、先生や子どもたちへの説明、それから先生や子どもへの取組、学校や学校生活へのモチベーションをあげる取組、やる気を起こさせる取組が必要ではないかのご意見をいただいております。
- 教育長 ありがとうございます。何かご質問はございますか。
- 委員A 白紙撤回してはという要望があったということですが、その理由はなんですか。
- 事務局 説明させていただいたのですが、エアコンがついたから短縮というような考え方ではないのかというようなところと、先生または子供の精神的な余裕が、夏休み短縮によってなくなるというようなことをおっしゃってございました。
- 教育長 補足しますと、エアコンがついたからという話がありましたが、まだエコアンが設置されていないのにそれを進めることについてはどうかと。設置されてか

らでもいいのではないかと。心のゆとりについては、いろんなことを学ぶのが学校であって学力だけでなく心を育てるのも大事やからゆとりがないと育たないのから、そういったことで考えてくださいということでした。

○委員A おそらく教育長から、先ほどの精神的に余裕がないことに対しての考え方も、以前から言われている新たな学習指導要領となると普段の授業時間が足りなくなることや、最近の天気のための授業日数が足りなくなることに、余裕を持ってスケジュールを立てていけることで余裕ができるということも、説明していただいているだろうと思う。また一方で各種団体からの体験やイベントの精査、団体の要求に授業日数を割いてまで受けなければならないのか、せっかく作った時間を有効に使うために取捨選択していかなければならない。暑いためにだけにエアコンをつけるのではないので前向きに検討して行ってほしい。授業日数を増やすために設置することを理解してほしい。

高砂市の教育の方針、一貫した流れを、団体や先生方に説明していかなければならないと思うし、それが、教育委員会の務めだと思う。

○委員B 私たちが思っている根本を先生方にご理解いただくというのがまず一番かなと。性急に話が進んだので、これからそのところをお詫びしながら納得していただかなければいけないと思いますけれども、私たちが根本的に思っているのは、高砂市の子供たちが学力において誇りを持ってほしいということです。自分たちは学力を持っているという自信を持ってもらいたいということから端を発して、先生方からプランを出していただいた中に、補習授業、授業数をもっとというご意見が出てきたわけです。それで授業数を確保するにはということになってるので、そこをまず丁寧にご説明して、子供たちに勉強ができるようになってほしいというところから共通理解をしていけたらなと思います。

○委員C 今、委員Bさんが言われたとおりで、先生方が今の高砂市の教育の最大の問題点とそれをどう克服するかというのが、我々の考え方とずれがあったというか、この間の手紙でも十分な時間が確保されていると、何故これで増やす必要があるのかということに関して、全く我々と考え方が違いました。我々としては、もっと学力を向上させたい、高砂の子はしっかり勉強できるということを前提にするために、アクションプランの中にも補習授業をやらなくてはならないと書いてある。そのためには授業時間が必要なのは明らかです。だからそのところをまずは頭に入れてもらって、そのために今回の授業時間を増やすための夏季休業の短縮という流れであると、今直近の課題を再認識してもらふ必要はあると思います。

○教育長 ありがとうございます。そういったことを受けとめてやっていく中で、昨日もお話しさせていただきましたように、確かに拙速だったということで、それにはある程度教育委員会の姿勢も問われるものでもありますし、私自身の資質といった問題にもかかわるようなことなのかなと考えまして、今日も小学校へ行

かせていただいて先生方のご意見を聞かせていただきました。その中で考えているんですが、端的に言いますと、自分の身の振り方について委員の皆さんの意見をいただいた上で、再度、考えていきたいと思っていますので、忌憚のない意見をいただきたいと思います。

○委員A 今、身の振り方のことがどうしてでてくるのか理解できません。エアコンを設置して、夏季休業を短縮することを決定したことの説明を今からしていかなければならない。現教育長が説明責任を果たさないといけないのに辞めたいということは無責任極まりないと私は思います。

○教育長 昨日私のほうから、教育委員会内でお話させていただいたときに、代表者会議で説明を求められて、不適切な発言をしてしまった。教育長としてそういう発言をしたことに対する責任といますか、どういうふうに考えているのかということに対して、昨日も報告させていただいて、ご意見もいただきましたが、改めて自分も一晩考えました。学力向上について、空調について、空調が入ってから夏季休業についてのことではなくて、責任を取るというのではなくて、そういった発言をしたことに対する責任という意味での身の振り方ということで、委員Aさんから激励の言葉をいただきましたが、そういった意味でのご意見をいただけたらということです。

○委員D 身の振り方ということが職を辞するという意味であれば、やめるとかそういうことを考えていただくことは一切ないと思います。不適切な発言が度重なったということで、そういう捉え方をされたということですが、教育長自身も途中ですぐ気がついたとおっしゃられていたように、その件を含めまして、教育長のお話を聞いていますと反省すべきところは反省されるし、次にむけての熱意とかいろんな事柄に対する分析もそれも、その立場での分析も、聞かせていただいている中で正確にされているなど感心しています。教育長という、長という立場の方として私も非常に信頼して、これからもその気持ちはゆるがないと思っていますし、ぜひその職務を全うしていただきたい。全うすることが、色々な責任を果たすということになるかと思っています。

○教育長 委員Dさんからいただいたような話とは若干違いまして、はっと気づきたいのではなく、ある議員さんにおかしいと言われたときに気づきました。議員さんの指摘によって、そのときにはじめて、これは不適切な発言だなと気づいたということです。自分で気が付いて、そのときにあらためたということではなくて、そういった意味でもっと深く反省すべき点があったなということを感じたところです。

○委員C 第三者に言われないうちになかなか気づかない点というのは、人間、多々あると思うのです。気づいた段階でまた自分が考え直すことによって、さらに成長できるし、またさらに立派な教育長になるのではないかと期待しています。だから、第三者に言われたからそれで責任をとるわけじゃなくて、第三者に言われて、

それでさらに自分のレベルが上がりました、ありがとうございますでいいのではないかと思います。そういう気づきがあって、改善できるものならば、今までの実績をみても、非常にいい教育長だと思いますし、教員としての歴史があるからかもしれません、いろんな角度から物事を見ることのできる教育長ですから、一般の社会からきた人間としてはこういった教育長でないと、教員しか知らない、教員の立場でしか意見が言えない教育長では困ると考えていますので、今回改めてもらった、さらに成長された教育長に今後も期待しています。

○教育長 ありがたいお言葉ですが、ただ、誰もがそういった発言をしてしまう可能性があるということですが、私は誰もの中の一人というとらえ方ではいけないという認識がありまして、教育長という職責の重さといいますか、自分の立場を自覚しなければならない、そこが欠けていたなと感じます。

○委員C そういう教育長の姿というビジョンを描いている、それが素晴らしいです。逆にいうとある高いレベルの方が失言を多々するじゃないですか。それでも現在その職務を続けられてる。改善するにしろ、反省していると言いながら続けているのが今の一般社会なので、教育長という素晴らしいビジョンを描いてやっていって、それに合わないからと言って、その責任をとるとなると、誰もそれをやりたい、やれるという人がいなくなるのではないかと。反省すべきことは反省すればいいことであって、理想は理想であって、理想に近づける、近づくというのは素晴らしい。でも、理想の人間がすべているのかということそうではないと思うのです。

○委員A 失言というよりも言葉使いの誤りというのか、言ってしまったことは戻らない。反省することは人生、みんなあると思う。そういうことを反省しながら、それを積み重ねて、自分の考えを作り上げていく。今回のことに関しては、言葉の選択を間違えたことを大きく反省するのであれば、自分の進退を図ることではないと僕は思う。続投していただかなければ、高砂市の教育の損失になると思う。

○教育長 進退っていうところまでも行かなくても、教育委員長がおられて教育長がいて、という立場のときには、教育委員長から厳重注意など課せられるという制度だったのが、教育長が教育委員長を兼ねることになり、この会も私がこのような形で進めていくような立場ですので、身の振り方を考えていくことも求められているのではないかと。いくら言葉で反省しても、本当にそうなのかと疑われても仕方ないのかということもありますので、そういう意味で身の振り方というのは何らかの形で必要でないかと考えたところです。

○委員A 今回の発言に関しては、言葉の使い方として軽率であったという、それで不適切な発言をしたということで指摘されたということ、それに関しては深く反省していただいて、今後そういうことの無いように、非難は真摯に受け入れてい

ただ、今後人との接し方に関してもやはり十分な配慮のあるような形で接していただけることを願って、今回のことに関しては反省を促しますという形で4人の教育委員から教育長への、反省してくださいと言う、そういうものを提出してもいいかなとは思っています。

○委員B 私は形の上で処分を受けるとかそういうことと言うのはある意味簡単なのですが、本当にそれでは変わらないと思うのです。逆に言うとちょっと厳しいことなのですが、教育長さんなので、高砂の教育を司る長の方なので、子どもに対して教育側にいる人っていうのは、全部教育長さん側にいる人なんです。保護者もそうですし、子ども対こちらという形で、教職員の先生全員もそうですし、事務局の方もそうだし、ご協力くださっている方皆さんそうなので、自分たち側にいる人に対して、協力していただいて、お力添えをいただいて、それで教育が動くわけですから、そういう人に対してもしも先入観をもって見た場合には真意って見えないです。相手の心の奥も見えにくくなりますから。そういう思いで子どもに対して我々は同じ側で、自分はその長にいるのだからという思いを持たれていれば、今後失言って出てこないと思うのですけれども、多分またやったらと思う恐怖感を持たれていらっしゃるんじゃないかと思います。やはり思いがそこに必ずあればそういうことは、もし出たとしてもすぐに気づかれるだろうし。今までの習慣でやはり出ることもあるかもしれません。そんなきれいにコロッと人って変わらないですから。でもその度に、「いや自分はそういう立場だから、みんな我々の側にいるんだから」と思っていて、一番いいのは教育長さん変わられたなって、そう思われることは、教育長さんが本当に反省されて変わられたという事だと思いますので、形の上の処分よりそちらのほうがずっと大変だと思いますが、それができる方だと信じておりますので、高砂市のとても大切な存在だと私は個人的に思っていますから、そういう風にお考えいただいてこれからも頑張っていたらありがたいなと思っています。

○教育長 ありがとうございます。今委員のみなさんのお言葉、本当に自分自身、そのようなある意味信頼していただいているという風に受け止めさせていただく中で、その信頼を裏切ってはいけないなと思っております。委員Bさんがおっしゃりました、子どもも保護者も先生方お一人お一人も、地域の方も、高砂市においては市民が関心をもっていただいている教育については、私が教育長として自覚をもって、みんなこちらを向いて色々な事を心配されて、色々な期待もされておられるのだと、改めてしっかりと心に刻みながら、今回のことを反省しながら、子どものために、保護者、地域の方々と共にしっかりと取り組んでいくことをやるべきだなと思いました。それが責任を取るのかなとおもいました。なにかこう逃げたような形になってしまっているという思いも少しありますけれども、そうじゃなくて、委員Bさんが言われたようにそれがより厳しい、自

分に対する戒めと言いますかそのようなことだなと思ってしっかりとつとめていきます。今後、厳しいご意見もいただいたりご指導いただいたりすることになるかと思えますけれども今後ともよろしくお願いします。どうもありがとうございました。

今もまだ夏季休業の変更につきましては色々な課題も沢山ありますし、その課題をひとつひとつ解決していくことが残っておりますので、それについては全力でかかっていきますし、それだけではなくて色々な課題が高砂市の教育にはありますので、私だけの力では当然課題も解決できないと思っておりますし、もちろん教育委員会の職員、教育委員の先生方、先程の繰り返しになりますけれども、市民の皆様、保護者、地域の方、議員の皆様にもそういう視点で色々なご意見いただいておりますので、それもしっかりと受け止めて頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお支援下さい。今日は本当に貴重な時間いただいてありがとうございました。

---

平成31年3月14日 午後9時18分 教育長会議の閉会を宣告

---